グラフ野田No.46 ■編集／野田市企画財政部秘書広報課 ■発行／野田市 〒278-8550 千葉県野田市鶴奉7番地の1 ☎04（7125）1111（代表） ■発行／平成25年 ■制作協力／油鉄印刷株式会社

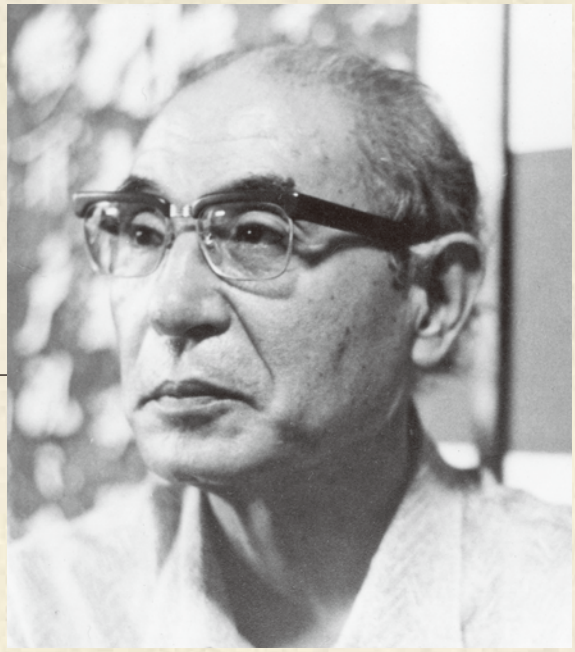
句歌で巡る野田 18

佐藤 佐太郎

さとう　さたろう

明治42（1909）年　11月13日、宮城県柴田郡大河原町に生まれる
大正14（1925）年　岩波書店に入社
大正15（1926）年　「アララギ」に入会し斎藤茂吉に師事
昭和15（1940）年　第1歌集「歩道」を刊行
昭和27（1952）年　歌集「帰潮」で第3回読売文学賞
昭和50（1975）年　紫綬褒章
昭和53（1978）年　「佐藤佐太郎全歌集」で第1回現代短歌大賞
昭和62（1987）年　8月8日　77歳で永眠

野田の街くれば醤油の倉庫ならび
ひさしのひまに降る雨しげし



佐藤佐太郎（1909～1987）

宮城県柴田郡大河原町に生まれた佐藤佐太郎は、幼少期に茨城県多賀郡平潟町（現・北茨城市）に移り、平潟尋常高等小学校卒業後、上京し、大正14（1925）年に岩波書店に入社しました。

翌15（1926）年にアララギに入会し、斎藤茂吉に師事。アララギ派の写実主義を受け継ぎながらも、純粋短歌論に基づく抒情性に富んだ新しい歌風を切り拓きます。

昭和15（1940）年、合同歌集『新風十人』（八雲書林）に参加した佐藤は、続いて刊行した第1歌集「歩道」によって、斎藤茂吉門の新鋭として歌壇に迎えられます。

同20（1945）年には、歌誌「歩道」を創刊。主宰として多くの門人を育てるとともに、戦後歌壇の第一人者として活躍しました。

また、同27（1952）年には第5歌集「帰潮」が第3回読売文学賞に選ばれました。このころの佐藤は、敗戦後の混乱が続く中、独力で始めた出版業も翌年には挫折し、経験もなく始めた養鶏も生活を支えるには足らず、貧困のうちに過ごした数年が背景となっていて、どの歌も生きることの悲しみがにじんでいます。

表題の一首も、佐藤が昭和25（1950）年に野田を訪れた際に詠んだものです。貧困のうちに、しかも妥協なく誠実に生き続けた人間の歌。それゆえ誰の胸にもひびき、共鳴を誘ってやまない歌、それがこの時期の佐藤の作品といえます。

毎日新聞歌壇選者や宮中歌会始選者などを歴任し、昭和58（1983）年には日本芸術院の会員となりました。また、歌人としての活動に加え、斎藤茂吉研究、長塚節研究、歌論書、短歌入門書、随筆、書画集など多くの著書を残しています。

（文中敬称略）

【取材協力】秋葉四郎氏
【写真提供】歩道短歌会
【参考文献】佐藤佐太郎全歌集／歌集下總（下總歌話会編）